

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401780
法人名	有限会社 くらはら
事業所名	グループホームあざみの里
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊3124番地3 (電話) 0957-65-1717

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	平成20年4月3日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 8,6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有()円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有()年
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 80歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・上田歯科医院
---------	-------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道57号線沿いの南島原市深江町にある2ユニットの当ホームは、雲仙普賢岳を背景に、ゆったりとした木造平屋建の造りで、庭先には菜園や日光浴できるベンチ、馴染みの散歩コースなどがあり、利用者は職員と共に日頃から外出したり、自然と触れ合うなどして楽しんでいる。理念を「一人ひとりに時間をかけて暖かく見守り、声かけして付き添う、拘束のない介護、個人生活の継続」と掲げ、職員間で共有し、理念を振り返りながら日々のケアを実践されている。管理者はケアプランを利用者や家族との「契約」と位置づけ、計画作成時に本人にとって出来ること・出来なくなっていること・本人がしたいことなどを踏まえ、日常生活に細かく目を向けて、利用者及び家族の意向を汲み取ったプランを作成している。又、管理者及び職員は、積極的に勉強会や外部の研修会に参加するなど、サービスの質の向上に意欲的である。職員と利用者という垣根を超えて、一つの大きな家族のような関係を作り、利用者で喜怒哀楽を共にされているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については職員間で検討し改善へ向け取り組まれているが、改善計画書を立案するまでには至っていない。改善に向けての目標や具体的な内容等を改善計画書として立案し、進捗状況や達成状況を評価・見直していくことに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者を含めて職員全員で取り組んでいる。自己評価票及び外部評価票は誰もが見やすい場所に置いている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1度開催されている。議題には利用者の状況や行事、今後の活動予定、流行の兆しがある感染症の事などが話し合われている。運営推進会議録に開催日時及び出席者名の記載が見受けられないので、記載しておくことが望ましい。より一層運営推進会議を活かして地域と共に支え合う関係づくりに期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情や意見に関して、意見箱を設置し、苦情相談担当者が対応されているが、現在まで意見箱への投書はない。家族との信頼関係が構築されていることが十分窺い知ることができると、できれば、直接言いにくい家族や利用者の立場を考慮し、ホームの窓口以外においても相談できる窓口(第三者・外部機関)を折に触れて家族に伝えていくことに期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの催しに地域の老人会が参加したり、地域の小学校での行事に利用者が参加するなどしている。職員も地域清掃に参加し交流を深めている。又、利用者の散歩や買い物などの外出時に挨拶を交わし、顔馴染みの関係を築いている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員にも浸透し、地域へ密着した取り組みを実践されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの実践において、全職員が理念の共有を意識して取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小学校における行事への参加、地域の老人会へのホーム行事参加の呼びかけなど積極的に取り組まれ、交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員及び管理者は共に自己評価に取り組んでいる。自己評価及び外部評価を活かして改善に取り組まれているが、改善計画書を立案するまでには至っていない。		改善に向けての目標や具体的な内容等を改善計画書として立案して、進捗状況や達成状況を評価・見直していくことに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月1回のペースで運営推進会議が開催されている。議題には利用者の状況や行事、今後の活動予定、流行の兆しがある感染症のことなどが話し合われている。		運営推進会議録に開催日時及び出席者名の記載が見受けられないので、記載しておくことが望ましい。より一層運営推進会議を活かして地域と共に支え合う関係づくりに期待したい。

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。運営推進会議以外に立ち寄ってもらうなどといったことは少なく、今後、取り組む意向であり、機関誌の配布等が検討されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族による面会時や利用料の支払い時に利用者の日々の様子や健康状態などを伝え、出納帳にはサインを得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見に関して意見箱を設置し、苦情相談担当者が対応されているが、現在まで意見箱への投書はない。		家族との信頼関係が構築されていることが十分窺い知ることができるので、できれば、直接言いにくい家族や利用者の立場を考慮し、ホームの窓口以外においても相談できる窓口(第三者・外部機関)を折に触れて家族に伝えていくことを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで職員の異動は少なく、異動があった場合には、利用者へのダメージに配慮し、利用者となんたな職員との馴染みの関係が築けるよう工夫されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は島原半島グループホームケア研究会での研修会や内部の研修会等に参加している。外部研修への参加希望があれば段階に応じて参加できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に島原半島グループホームケア研究会による研修会や交流する機会が設けられており、グループホーム間で相互関係を築き、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者と事前に面接したり、ホームへ見学に来てもらうなど、雰囲気に馴染みながらサービスの利用ができるよう配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が自ら下膳やテーブル拭きをしたり、職員が利用者から昔の知恵を教えてもらうなど、共に支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>できるだけ本人のペースに合わせながら、ケアに取り組むよう努力されている。生活暦を参考にして、本人の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。本人や家族の要望も取り入れ、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しが行われており、家族や利用者の要望に応じて、適宜見直しや変更などがなされている。</p>		

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院先へ見舞いに行くなどして要望などをできるだけ聴いている。利用者、家族の状況に応じて通院の送迎など必要な支援は柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によるかかりつけ医がいる場合は尊重している。定期的に医療の受診を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までターミナルケアへの実践はないが、今後は医療連携体制を構築してターミナルケアができる体制を検討されている。今後の利用者の状態に応じて、医療・家族・介護者との連携・体制作り ^に 期待したい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の取り扱いには十分留意されている。職員の言葉かけや対応などが本人の誇りや尊厳を損ねることがないように、意識の向上に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、その人らしい暮らしが支援できるよう一人ひとりの個別性に配慮した支援を行っている。		

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の健康状態に合わせた食事が提供されている。利用者と献立を立てたり四季の変化に合わせたものや希望を取り入れた食事が提供されており、利用者と職員と一緒に野菜の皮むきや配膳、後片付けなどをされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとで隔日に入浴できるようにしている。希望者がいる場合は希望に沿った入浴ができるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴を把握し、本人に合った役割を持たれており、職員も感謝の言葉を伝えて共に生活をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの散歩コースやドライブなど利用者の希望に沿うよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室は施錠されていない。職員は鍵をかけることの弊害を十分理解されている。職員が見守りながら、安全面に配慮した対応に留意されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防・避難訓練を実施しており、地域の方の協力も得られるよう働きかけている。		

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事をチェックし、利用者の状況に応じてきざみ食等が適切に提供されている。本人の健康状態は職員間で情報が共有されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の採光は適切で明るく、尊厳を損なうような装飾は見受けられず、季節感を取り入れた空間作りがなされている。庭先には菜園や日光浴できるベンチ、馴染みの散歩コースなどがある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、夫婦で入居されている方や使い慣れたものを持ち込まれている方などが見受けられたが、一方で家族への協力を依頼するものの、持ち込みが少ない居室も見受けられた。		利用者の「その人らしさ」に着目した居室作りを家族と継続的に話し合い、利用者の居室が「家族も一緒に憩える場」として充実していくことに期待する。